3/4~3/12

カンボジアスタディーツアー報告会

D24-4002　紫村怜奈

目次

- 参加動機と目標
- 日程と訪問先
- 保健指導
- 生活と文化
- 平和教育
- 未来への展望

参加動機と目標

・外国に行ってみたい

・日本ではできない経験をしてみたい

・カンボジアの保健事情を知りたい

・様々な人と交流したい

〇学びをこれからに生かす

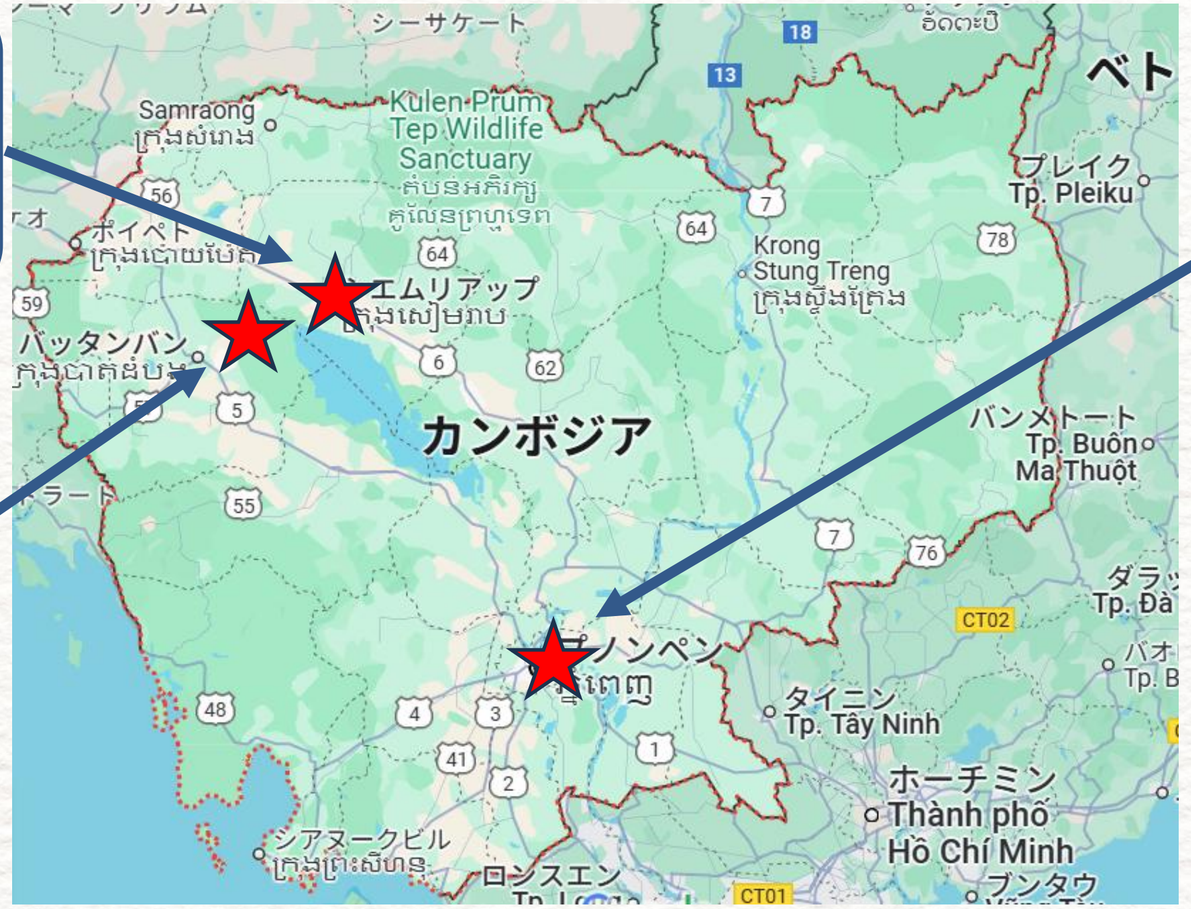
〇文化の違いを感じる

〇興味の幅を広げる

日程と訪問先

3/4～3/5　シェムリアップ
- アンコールワット
- アンコールトム
- パブストリート

3/6～3/8　バッタンバン
- BTEC
- Phare　Circus
- バンブートレイン



3/8～3/12　プノンペン
- キリングフィールド
- トゥールスレン収容所跡
- セントラルマーケット
- PTEC
- 国立博物館
- 王宮

保健指導

・ラジオ体操の効果を伝えて実践する

・BTECとPTECの生徒の雰囲気は想像以上に違った

・ラジオ体操を知っている人もいた

・日本の子どもたちと比べてとても元気で積極的

・前向きに参加できていない子への対応が見事だった

・授業をするまでの入念な準備、当日の臨機応変な対応が難しかった

・言語の壁を越えたコミュニケーションの重要性

・自分の英語で伝えられる力をつけたい

生活と文化

クメール料理

中国やインドなどの近隣国に影響を受け、様々な国の食文化が融合している。
辛い味付けと野菜を多く使った料理が多かった。
大皿から取り分けて食べることが印象的だった。

トイレ事情

紙を流せない、置いていないトイレが多数あった。
ホースがあって簡易ウォシュレットの役割を担っていた。
衛生的とは言えない…

日本とのつながり

スーパーに納豆やうどんなどの日本食が置いてあった。
「味の素」は現地の食生活に浸透している。
こんにちは＝味の素　と勘違いしている人も！

平和教育

○キリングフィールド

　囚人が処刑された大量虐殺の現場で、無数の遺骨や慰霊塔があり、死の現場としての悲惨さが直接伝わる。

　音声ガイドを聞きながら池の周りをゆっくり歩く時間は、様々なことを深く考える機会になった。

○トゥールスレン収容所跡

　かつての高校を改装した刑務所で、捕らえられた人々が拷問を受けた場所。

　内部には写真や遺品、拘束具などが展示され、当時の残虐な実態を目の当たりにした。

目を背けたくなるような光景だったが、同じ過ちを繰り返さぬよう記憶にとどめたいと強く思った。

犠牲者が連れてこられた駐車場。
車が到着するとすぐに近くの地下牢に入れられた。

未来への展望

・BTECとPTECの学生の子どもたちの気持ちに寄り添った指導
→「対等な1人の人」として子どもたちと向き合っていきたい

・英語もクメール語も十分に使えなかったが試行錯誤して何とか伝えようと努力した
→言葉を交わすことだけがコミュニケーションではない、相手を思って気持ちを伝えることがコミュニケーション

・初めて保健指導を体験してその楽しさと難しさを身を体感した
→万全の体制づくりと柔軟な対応を心掛けて、子どもたちがより楽しく学べる環境を作りたい

・カンボジアを自分の目で見て、心が動く経験がたくさんあった
→思い出として終わらせず、これからの自分に活かす糧にしたい

Thank you for listening!